

東亞 通訊社	民黨左派	劉魯際 馮世甫	民國十六年陳孚木ノ出資ニ依リ創設 セラレ華僑聯義社及中華海員聯合會 ノ通信機關ナリ資本金六百元
南方 通訊社	無黨派	孔仲南 廖式如 郭叔餘 陳漢英 孔來民	民國九年孔仲南資金ヲ集メテ南方報 ヲ創刊シタルカ經營意ノ如クナラス 後改メテ通信社トナス販路廣カラス 資金五百元
覺悟 通訊社	民黨系	陳劍如 周泚華 吳永康 張子詠 梁雨川 葉菊生	民國十一年創設陳劍公、張持兩人ノ 出資ニ依リ創立シタルモノニシテ市 政廳ノ機關紙ナリ又國民黨右派ニ屬 シ現ニ孫科ノ機關紙タリ資本六百元

在廣東日本總領事館

0186

情報部

機密第三六號

昭和三年二月二十四日

在遼陽

領事館事務代理 吉井秀男

外務大臣男爵 田中義一殿

新聞及通信ニ關スル調査報告書提出ノ件

當館管内ニ於ケル昭和二年末現在新聞及通信ニ關スル調査報告書
二通茲ニ提出ス御査閱相成度シ

別紙添付

昭和三年三月七日 接受

0187

在遼陽日本領事館

新聞及通信其他ニ關スル調査

一、概説 當管内ニ有力ナル新聞ナク唯遼陽鞍山西地、地方新聞ニテ普通新聞紙、半頁大ニ相當スル却文遼報毎日新聞(四頁)アルモ一般操縦界ニ於テ何等權威ナク單ニ當地方ニ於ケル社會的報導機關ヲ兼ネタル廣告式新聞トモ稱ス可キ程、モ、ナリ尚該新聞ニ關係アル團體トモハモモナシ

二、新聞通信及雜誌

名稱	主義系統	持主又ハ社長	主筆及主ナル記者	備考
遼報	一、主義系統 二、政治經濟並 三、地方の情況ヲ 報導スルヲ主眼 ニシテ編輯スル比較 的穩健ナリ	一、持主又ハ社長名並 其人物經歷概略若 社長渡邊徳重	主筆渡邊徳重 人物經歷等上欄ノ面 リ	一、創刊年月 明治三十二年五月創刊 初メ遼陽ノ新聞ト稱 ス
遼陽新聞	一、主義系統 二、政治經濟並 三、地方の情況ヲ 報導スルヲ主眼 ニシテ編輯スル比較 的穩健ナリ	一、持主又ハ社長名並 其人物經歷概略若 社長渡邊徳重	主筆渡邊徳重 人物經歷等上欄ノ面 リ	一、創刊年月 明治三十二年五月創刊 初メ遼陽ノ新聞ト稱 ス
遼陽時報	一、主義系統 二、政治經濟並 三、地方の情況ヲ 報導スルヲ主眼 ニシテ編輯スル比較 的穩健ナリ	一、持主又ハ社長名並 其人物經歷概略若 社長渡邊徳重	主筆渡邊徳重 人物經歷等上欄ノ面 リ	一、創刊年月 明治三十二年五月創刊 初メ遼陽ノ新聞ト稱 ス
遼陽日報	一、主義系統 二、政治經濟並 三、地方の情況ヲ 報導スルヲ主眼 ニシテ編輯スル比較 的穩健ナリ	一、持主又ハ社長名並 其人物經歷概略若 社長渡邊徳重	主筆渡邊徳重 人物經歷等上欄ノ面 リ	一、創刊年月 明治三十二年五月創刊 初メ遼陽ノ新聞ト稱 ス
遼陽時報	一、主義系統 二、政治經濟並 三、地方の情況ヲ 報導スルヲ主眼 ニシテ編輯スル比較 的穩健ナリ	一、持主又ハ社長名並 其人物經歷概略若 社長渡邊徳重	主筆渡邊徳重 人物經歷等上欄ノ面 リ	一、創刊年月 明治三十二年五月創刊 初メ遼陽ノ新聞ト稱 ス

在遼陽日本帝國領事館

三、通信員 當地ニ特派セラレタル者ナク當地在住者カ副業的ニ通信ヲ兼ネ特々當地ノ出來事ヲ各自其
本社ニ通信シワ、アリ

氏名	所屬新聞社	備考
渡邊源藏	遼洲日報社	明治十九年生、福岡縣人、元關東廳警部、タリシ事アリ辭職後遼陽

加藤政人	瑞洲日报社	瑞洲日报社	瑞洲日报社 瑞洲日報(遼陽支局)トナリ併シ支所員商 等也
極東回報社			
内野長作	瑞洲日报社	瑞洲日报社	明治十七年生 福岡縣人 甲種商中學校卒業後渡滿各種商事ヲ行ヒ大正 十一年瑞洲日報ニシテ編輯ニ任ズ瑞洲日報 ニシテ昭和五年五月瑞洲日報支局ニシテ 編輯ニ任ズ同報支局長トシテ在任中 長トシテ瑞洲日報支局長トシテ在任中 同報支局長トシテ在任中
杉木心一	大連新聞社	大連新聞社	明治二十六年生 福岡縣人 瑞洲日報支局長トシテ在任中 大連新聞社支局長トシテ在任中
井口萬次郎	右同	右同	明治十七年生 香川縣人 大連新聞社支局長トシテ在任中 大連新聞社支局長トシテ在任中
野村數一	大連新報社	大連新報社	明治十九年生 廣島縣人 大連新報社支局長トシテ在任中 大連新報社支局長トシテ在任中
島村彦市	奉天毎日新報社	奉天毎日新報社	明治四年生 兵庫縣人 奉天毎日新報社支局長トシテ在任中 奉天毎日新報社支局長トシテ在任中
渡邊正八	右同	右同	明治十一年生 鹿兒島縣人 奉天毎日新報社支局長トシテ在任中 奉天毎日新報社支局長トシテ在任中
佐々野忠八	奉天日新報社	奉天日新報社	明治四年生 長崎縣人 奉天日新報社支局長トシテ在任中 奉天日新報社支局長トシテ在任中
末宗安吉	右同	右同	明治四年生 大分縣人 奉天日新報社支局長トシテ在任中 奉天日新報社支局長トシテ在任中
青山貞雄	奉天新報社	奉天新報社	明治九年生 兵庫縣人 奉天新報社支局長トシテ在任中 奉天新報社支局長トシテ在任中

在遼陽日本帝國領事館

情報部

昭和三年二月二十九日

（已號用紙）

3.14

機密公信第四〇號

昭和三年二月二十九日

仕長沙

領事 榎谷 廉二



外務大臣男爵 出 中 義 一 殿

新聞及通信ニ關スル調査報告書提出ノ件

本件ニ關シ客月十一日附報一機密台第二一號ヲ以テ御來示ノ趣取承依テ別紙調査報告書（正副二通）提出ニ及ヒタルニ付御査閱相成度シ

600,743
600,933

在長沙領事館

0192

概説

新聞及通信ニ關スル調査（昭和二年末現仕）

（已號用紙）

本年歲ニ於ケル當地言論界ノ趨勢ヲ大別シテ二期ニ分カツコトカ出來ル。即チ第一期ハ五月二十一日ノ事隊共産黨衝突事件迄ノ共産黨ノ横行時代テアル。其間共産黨指導ノ下ニ各種工賃團體ノ横暴到ラサルナク苟クモ之ニ敵對スルモノハ粉砕セスンハ已マヌ勢ニアツタ。從テ當地ニ於テ最モ古キ歴史ヲ有シ其穩健ナル主義主張ニ一般各階級ノ支持ヲ受ケテ米々大公報カ目ノ敵ニセラレ停刊命令最初ノ犠牲トナツタノハ當然テナケレハナラヌ。又資本家テアル間民側ノ言論ヲ代表シテ十五年十月労働者側ニ對抗シテ現ハレタ間民日報モ又同シ運命ニ遭ツタ。カクテ前半季當地言論界ハ一ニモ二ニモ共産主義三民主義ナラテハ夜モ明ケテ状態テアツタ。第二期ハ即チ五月二十一日事件以來年末ニ至ル時期テアル。許克祥等事隊側ト衝突シタノハ共産黨トシテハ功ヲ急イタ爲メトハ云ヘ全ク致命的ナ打撃テアツタ。彼等ノ勢ハ頓ニ衰ヘタ。タカラ本米ナラハ彼等ノ據テ盛ンニ共産主義労働農主義ヲ鼓吹シ

0193

在長沙領事館

テ姑タ湖南民報ノ如キハ早速鎗玉ニ上ラネハナラヌ筋台ノモノテハア
ツタ。ケレ共週知ノ通り唐生智ノ共産黨ニ對スル甚タ煮エ切ラヌ態度
ト云フヨリモ寧ロ地盤維持ノ爲メニハ共産黨ト提携シ或ハ之ヲ利用
スルヲ辭セナカツタ唐生智ノコトテアツタカラ共産黨員ノ言論機關ニ
對シ想像外ニ寛大テアツタコトハ言フ丈ケ野暮テアル。サレハ湖南民
報ハ依然繼續發刊セラレ多少緩和コソシタレ尙主義ノ宣傳ヲ熄メナカ
ツタ然シ乍ラ共産黨ノ國民黨乘取ノ陰謀ヲ暴露シテ武漢政府ノ共産黨
驅逐以策カ決定スルヤ唐生智モ自己ノ立場ヲ擁護スル意味台カラ斷然
共産黨ト斷ツノ必要ノアツタコトハ言フマテモナイ。カクナル以前唐
生智ハ人氏嫌惡ノ的トナツタ共産黨ヲ表面上取締リヲ勵行シツツアツ
タカラ紙上ニ共産主義關係ノ記事ハ漸次萎ヲ潜メツツアツタカ、ココ
ニ至ツテ共産黨員等ハ全然當地言論界ノ國外ニ立ツコトトナツタ。コ
レヨリ先キ唐生智ハ早晚共産分子トノ絶縁ヲ豫覺シ別ニ軍隊以外山米
ノ共産黨ニ代ルヘキ勢力ヲ省民ノ間ニ獲得セウト暗ニ策勵シツツアツ
タコトハ概ヲ見ルニ敏地盤ノ確保ニ餘念ナキ彼トシテ別段小思議テモ

(已號用紙)

0194

在長沙領事館

ナイ。即チ豫テ彼ハ佛教信者トシテ佛化曹ナルモノヲ創設シテ姑タカ
本曹ヲ利用シテ佛教ノ力ヲ籍リテ省民ノ間ニ勢力ヲ扶殖セムトシタ。
コレカ共産黨絶縁ト共ニ所謂佛化分子ノ省政掌握ト云フ現象トナツテ
現ハレタノテアル。新聞界カコノ勢力ニ依テ左右セラルルコトトナツ
タノハ當然テ、即チ豫テヨリ唐一味ニ對シ快ク思ツテ姑ナカツタ國民
黨一派ハ其壓迫ヲ受ケ概紙長沙民報モ多少曲折ハアツタニセヨ
結局發行停止ヲ命セラレタ。共産分子ノ據ツテ姑タ湖南民報モ改組セ
ラレタ省黨部員即チ唐一味ノ佛化分子ニ占領サレ共ノ機關紙トナツ
タ。ソノ間共産分子ノ殘黨、國民黨、並ニ唐生智一味ト三巴ノ宣傳戰
ハ仲々ニ混沌タルモノカアツタカ結局生エ抜キノ唐ノ御用新聞テアツ
タ南嶽日報ト新ニ共ノ一味ノ手ニ歸シタ湖南民報トノ二ツカ残り唐及
共一味ノ宣傳機關トシテ専ラ自派ヲ擁護シ佛化宣傳ヲ行フコトトナリ
唐カ没落シテカラモ湖南セル共ノ殘黨ノ支持ニ依リ相變ラス佛化ノ宣
傳ニ終始スルコトトナツテ引續キ年末ニ至ツタ。之ヲ安スルニ本年度
ニ於ケル當地言論界ノ趨勢ハ社曹ノ木釋テアリ民衆ノ耳目テアルヘキ

(已號用紙)

0195

在長沙領事館

新聞紙ナルモノモ結局支那今日ノ如キ亂世ニ於テハ三山記事ノ報道以外ニ其ノ本來ノ使命ヲ全フスルコトハ不可能ニシテ一黨一派ノ機關紙トシテ其ノ宣傳擁護ノ役目ヲ勤ムル以外ニ其ノ存在ハ許サルモノテハナイト云フコトヲ物語ルモノニシテ從テ止論ノ如キ樂ニシタタモ見當ラナカツタ。

尙且來ノ通訊社（通信社）ハ國民革命軍内各軍ニ設ケラレタル政治部カ中事電話ニ依テ地方ノ消息ヲ迅速報道スルコトトナリタル以來貧弱ナル私設通訊社ハ自然存在ノ意義ヲ失ヒ其ノ姿ヲ潛メタ。雜誌ナシ新聞及通信

(已號用紙)

名稱	主義系統	持主又ハ社長	主筆	備考
南嶽日報 (漢文)	三民主義 提倡佛化 唐生智系	社長 馮天柱 氏以廳長 副社長 楊績孫	趙樹雲	民國十五年四月衡山ニ於テ創刊、七月唐生智八城ト共ニ本社ヲ長沙ニ移ス 日刊、發行部數二千部

在長沙領事館

0196

名稱	主義系統	持主又ハ社長	主筆	備考
湖南日報 (漢文)	三民主義 桂潛系統	社長 張振武 第四路指揮 以治主任 經理 潘第十七師 以治主任	張坦然	日刊發行部數三千部 所址地白王倉街

雜誌ナシ

(附) 追テ右ハ昭和二年末現任ナルトコロ目下ハ湖南日報一紙ニシテ即チ今次武漢軍入湘ト共ニ一月下旬南嶽日報ハ停刊シ湖南日報ノ職員モ全部逃走シタルヲ以テ桂潛ハ湖南日報ヲ接收シ自派ノ機關紙トナシ續刊シタルカ内等御參考迄左記ニ報告ス

(已號用紙)

0197

在長沙領事館

湖南省

長沙

新聞及通信手紙の調査（昭和二年未現仕）

（已號用紙）

概説

本年最ニ於ケル富地言論界ノ趨勢ヲ大別シテ二期ニ分カツコトカ出来ル。即チ第一期ハ五月二十一日ノ軍隊共産黨衝突事件迄ノ共産黨ノ横行時代テアル。其間共産黨指導ノ下ニ各種工賃團體ノ横暴ヲサレナク苟クモ之ニ敵對スルモノハ粉碎セズンハ已マヌ勢ニアツタ。從テ富地ニ於テ最モ古キ歴史ヲ有シ其穩健ナル主義主張ニ一般各階級ノ支持ヲ受ケテ米タ大公報カ目ノ敵ニセラレ停刊命令最初ノ犠牲トナツタノハ當然テナケレハナラス。又資本家テアル田氏側ノ言論ヲ代表シテ十五年十月労働者側ニ對抗シテ現ハレタ田氏日報モ又同シ運命ニ遭ツタ。カクテ前半季富地言論界ハ一ニモ二ニモ共産主義三民主義ナラテハ夜モ明ケテ状態テアツタ。第二期ハ即チ五月二十一日事件以來年末ニ至ル時期テアル。許克祥等軍隊側ト衝突シタノハ共産黨トシテハ功ヲ急イタムトハ云ヘ全ク致命的ナ打撃テアツタ。彼等ノ勢ハ頓ニ衰ヘタ。タカラ本米ナラハ彼等ノ據テ盛ンニ共産主義労働主義ヲ鼓吹シ

在長沙領事館

0198

（已號用紙）

テ始タ湖南民衆ノ如キハ早速鎗玉ニ上ラネハナラヌ筋台ノモノテハアツタ。ケレ共週知ノ通り唐生智ノ共産黨ニ對スル甚タ煮エ切ラヌ態度ト云フヨリモ寧ロ地盤維持ノ爲メニハ共産黨ト提携シ或ハ之ヲ利用スルヲ辭セナカツタ唐生智ノコトテアツタカラ共産黨員ノ言論機關ニ對シ想像外ニ寛大テアツタコトハ言フ丈ケ野暮テアル。サレハ湖南民衆ハ依然繼續發刊セラレ多少緩和コソシタレ尙主義ノ宣傳ヲ勉メナカツタ然シ乍ラ共産黨ノ國比黨乗取ノ陰謀カ暴露シテ武漢政府ノ共産黨驅逐以策カ決定スルヤ唐生智モ自己ノ立場ヲ擁護スル意味カカラ斷然共産黨ト斷ツノ必要ノアツタコトハ言フマテモナイ。カクナル以前唐生智ハ人民嫌惡ノ的トナツタ共産黨ヲ表面上取締リヲ勵行シツツアツタカラ紙上ニ共産主義關係ノ記事ハ漸次萎ヲ潜メツツアツタカ、ココニ至ツテ共産黨員等ハ全然富地言論界ノ國外ニ立ツコトトナツタ。コレヨリ先キ唐生智ハ早晚共産分子トノ絶縁ヲ豫覺シ別ニ軍隊以外に來ノ共産黨ニ代ルヘキ勢力ヲ省民ノ間ニ獲得セウト暗ニ策動シツツアツタコトハ概ヲ見ルニ敏地盤ノ確保ニ餘念ナキ彼トシテ別段不思議テモ

在長沙領事館

0199

ナイ。即チ據テ彼ハ佛教信者トシテ佛化習ナルモノヲ創設シテ居タカ
 本智ヲ利用シテ佛教ノ力ヲ籍リテ省民ノ間ニ勢力ヲ扶殖セムトシタ。
 コレカ共產黨絶縁ト共ニ所謂佛化分子ノ省政掌握ト云フ現象トナツテ
 現ハレタノテアル。新聞界カコノ勢力ニ依テ左右セララルコトナツ
 タノハ當然テ、即チ據テヨリ唐一味ニ對シ快ク思ツテ居ナカッタ。國
 黨一派ハ其壓迫ヲ受ケ概シ紙長沙民報日報モ多少曲折ハアツタニセヨ
 結局發行停止ヲ命セラレタ。共產分子ノ據ツテ居タ湖南民報モ改組セ
 ラレタ。各省黨部員即チ唐一味ノ佛化分子ニ占領サレ共ノ概シ紙トナツ
 タ。ソノ間共產分子ノ殘黨、國民黨、並ニ唐生智一味ト三巴ノ宣傳戰
 ハ仲々ニ混沌タルモノカアツタカ結局生工抜キノ唐ノ御用新聞テアツ
 タ南嶽日報ト新ニ共ノ一味ノ手ニ歸シタ湖南民報トノ二ツカ残り唐及
 共一味ノ宣傳機關トシテ專ラ自派ヲ擁護シ佛化宣傳ヲ行フコトナリ
 唐カ没落シテカラモ湖南セル共ノ殘黨ノ支持ニ依リ和變ラス佛化ノ宣
 傳ニ終始スルコトトナツテ引續キ年末ニ至ツタ。之ヲ安スルニ本年歲
 ニ於ケル湖南言論界ノ趨勢ハ社智ノ木ヲアリアリ民衆ノ耳目テアルヘキ

(已號用紙)

0200

在長沙領事館

<p>新聞紙ナルモノモ結局支那今日ノ如キ亂世ニ於テハ三四記事ノ報道以 外ニ其ノ本來ノ使命ヲ全フスルコトハ不可能ニシテ一紙一派ノ概シ紙 トシテ共ノ且博擁護ノ役目ヲ勤ムル以外ニ其ノ存在ハ許サルモノテ ハナイト云フコトヲ物語ルモノニシテ從テ止論ノ如キ樂ニシタタモ見 當ラナカッタ。</p>	<p>尙在來ノ通訊社(通信社)ハ國民革命軍内各軍ニ設ケラレタル政治 部カ半軍電話ニ依テ地方ノ消息ヲ迅速報道スルコトトナリタル以テ貧 弱ナル私設通訊社ハ自然存在ノ意義ヲ失ヒ共ノ姿ヲ潛メタ。雜誌ナシ 新聞及通信</p>	<p>名稱</p>	<p>主義系統</p>	<p>持主又ハ社長</p>	<p>主筆</p>	<p>備考</p>
<p>南嶽日報</p>	<p>三民主義</p>	<p>社長 馮天柱</p>	<p>趙樹雲</p>	<p>民國十五年四月衡山ニ 於テ創刊、七月唐生智 入城ト共ニ本社ヲ長沙 ニ移ス</p>	<p>日刊、發行部數二千部</p>	<p>唐生智系</p>
<p>(漢文)</p>	<p>提倡佛化</p>	<p>副社長 楊續孫</p>	<p>副社長 氏以應長</p>	<p>唐生智系</p>	<p>在長沙領事館</p>	<p>楊續孫</p>

(已號用紙)

0201

(已號用紙)

湖陽氏報 (漢文)	三氏主義 唐生智系	電話局長 朱兆幹	周詠康	所在地、長沙坡子街 民國十五年八月創刊 日刊發行部數二千冊 所在地長沙白三倉街
湖陽氏報 (漢文)	三氏主義 程潛系統	社長 張振武 第四路指揮 主任 張治 經理 第十七師 主任 張治	主筆 張坦然	日刊發行部數三千冊 所在地白王倉街

ニ雜誌ナシ

(附) 進歩右ハ昭和二年末現ルナルトコロ目下ハ湖陽氏報一紙ニシテ
 即チ今次武漢事人加ト共ニ一月下旬南嶽日報ハ停刊シ湖陽氏報ノ職員
 モ全部逃走シタルヲ以テ程潛ハ湖陽氏報ヲ接收シ自派ノ印刷紙トナシ
 續刊シ心レカ内等御参考迄在記ニ報告ス

在長沙領事館

0202



(分類A 附3 類5 項0 目3-1)
100,933

報 112

公文書案	件名	新南調査報告二南三件	受信人名	別表公館長	送信人名	田中大臣
	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル
公文書案	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ	二月十八日附報三機密合第一四九号ヲ以テ
公文書案	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル
公文書案	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル	送付シタル	「欧米清国及其属領土耳吉埃及暹羅ニ於ケル新南調査」ニ係ル

文書課長
公文書案

外務省
新南調査報告

0203

59

(乙 號用紙) 圓筒

最近ノ調査報告ヲ収録セシ次第ナル如ク
調査ノ由圖承知ノ如ク毎年一回改訂刊行
ノ事ニ付成強
向ニアリテ改版ノ目的ヲ達シ難ク^シ爲不便
ラサニ現状ニ付^ル本年^度報告(昭和三
十二年^{現在})速カニ尙提出相成致度ニ
迫テ新タ^ク提出スルヘキ^ニ調査ノ前

0204

外務省

(乙 號用紙) 圓筒

報告^レ以後ニ於テニ變動^ノ由^ニ昭和三
十二年^{十一月}版所載ノ概説^レ及^テ個別説
明^レニツキ訂正^ノ要スル^ハ点ノ^一
ヲ摘録セラル^ル方^ヲ編輯上^ノ便利
ナ^ルト^モ思^フル^ニ付^テ右^ノ概説^ノ訂正^ノ要
カ^ク右^ノ由^ノ合^上申^出ス

0205

外務省

情報部

機密公 第七四號

昭和三年三月二日

在通化

分館主任 阿部又重 郎

外務大臣 田中義一 殿

新聞雜誌 通信員ニ関スル報告件

昭和二年十二月末現在當館管内ニハ新聞雜誌ノ發行セルモノ無也通信員ハ別添ノ通ニ付此般報告申進ス

在奉天日本總領事館通化分館

昭和參年參月八日 機密

附屬書添附

情 3.3.3

0207

4/00.443
600.933

又

新聞雜誌通信員調

東亞日報	東三省民報	道南報	順天時報	醒時報	大北新報	滿洲報	奉天時報	新報	新報
京城	奉天	上海	北京	奉天	哈爾濱	大連	奉天	奉天	奉天
樺作城	梁素	吳木軒	田人	趙常武	王岱山	張子學	李笑雲	通信員所在地及氏名	通信員所在地及氏名
韓江水	干凱	毛振東	王紹章	王紹章	王紹章	王紹章	王紹章	備	備
朝鮮本									

0208

在沙市
分類
600,943
600,933

在沙市日本帝國領事館

情報部
機密第一八號

昭和三年一月二日

在沙市

領事以海市川信

外務大臣野澤田中義一殿

新聞通信其他ニ関スル調査報告提出件

客年十二月末現在在沙市ニ於ケル新聞ニ関シ別紙ノ
通リ報告提出ス 尚査閲相成度

以上

昭和三年一月廿二日接受

附屬書添附

3. 2. 22

0209

600.943
600.933

情報部

機密第一六七號

第一號

昭和三年三月五日

在哈爾濱

別紙添付

總領事 八 不 元 八

昭和三年三月廿二日接

情 3.3.23

外務大臣男爵 田 中 義 一 殿

哈爾濱ニ於ケル新聞及通信ニ關スル調査報告ノ件

昭和二年来ニ於ケル在哈爾濱新聞及通信ニ關スル調査別紙ノ通り報告

在哈爾濱日本帝國總領事館

0212



一、概要

昭和二年度ニ於ケル哈爾濱ノ新聞界ハ大體ニ於テ前年度ト相違シキ相違ナルヲ認メ本年一、度末ニ於ケル新聞紙ノ數ハ日刊、漢字紙七、露字紙六、邦字紙二、英字紙二、通信邦人經營ニ、支那人經營一ニシテ前年度末ニ比シ漢字紙ニ於テニ減セリ内最勢力アルハ露字紙及漢字紙ナルコト勿論ナルカ從來露字紙ハ赤系トシテ「モルワ」、白系トシテ「ルスコエ、スローウキ」カ各色彩ヲ鮮明ニ對立シ居タル處其ノ間ニ在リテ赤系ニ近カリシ「ワクスチ、ジースコ」ガ勞農側ニ買收セラレテ其ノ機關トナリ

又表面中立ヲ標榜シ居リシ「ワリヤレ」ガ最近全ク白派ニ走り支那側機關紙以外中間派ノ姿ヲ没シタルハ注目ニ値スル現象ナリトス漢字紙ニ於テハ國際協報多少活氣ヲ帯ヒ居ルノミニテ他ハ語ルニ足ラス

在哈爾濱日本帝國總領事館

支那官憲ノ新聞紙ニ對スル取締リ壓迫ハ依然トシテ峻烈ヲ極メ爲ニ露字紙ハ勿論漢字紙ト雖絶ヘス競々トシテ官邊ノ自界息ヲ窺フニ努カメツ、アルヲ以テ其ノ所説ニヨリテ真ノ意思ヲ知ルハ困難ナランカ然レ共取締ニ對シ各紙相警戒スルカ故本年度内ニ於テ筆過ヲ被リ廢刊スルノ事ナキニ至レルモノナク漢字紙筆北新報カ關係者中赤化嫌疑ノ者アリタル際

二、漢字新聞

ヲ以テ二月十六日停刊ヲ命セラレ遂ニ廢刊セルアルノミ

當地ノ漢字新聞ニシテ支那人經營ニ係ルモノハ概ネ其
記事遲延舊聞ニ屬スルコト多ク又論壇ヲ設ケ
テ廣ク輿論ニ向ヒ或ハ識者ノ主張ヲ紙上ニ紹介ス
ルカ如キコト更ニ益ク國際協報カ時ニ不正ナル論評
ヲ試ムルコトアル以外社説論評ヲ掲クルモノ稀ナ
リ報道ノ迅速紙面ノ改良ヲ競フ點ニ於テ支那紙
ハ一般ニ無関心ノ有様ニテ其間國際協報独リ種
多クノ活氣ヲ帶フニ似タリ尤モ支那ノ新聞通信ハ
地方官憲ノ干涉ニ因リ其言論ノ自由ヲ奪ハレツニア
ル事ハ新聞通信トシテノ眞ノ價値ヲ失フ所以ナルモ
亦總テ其社長以下社員ノ行動ヲ見ルニ彼等ハ新

在哈爾濱日本帝國總領事館

聞業ヲ名トシテ私利ヲ得ルニ苦心シ新聞通信
事業ノ為メ献身的活動ヲナスノ意思ヲ有セス
實ノ目的ハ他ニ存シ新聞通信業經營ハ副ノ
副タルモノト認メテ可ナルヘキカ今當地ニ於ケル
代表的支那人經營ノ漢字新聞トシテハ國際協
報哈爾濱支那報及東三省高報ノ三紙ヲ數フルヲ得
ヘキモ他ハ皆一樣問題視スルニ足ラス

亦年中ニ停刊ノセムトスニ至リタルモノニ

東陸高報 (十月三日停刊)

大成時報 (六月三日停刊)

華北新報 (二月十六日停刊)

三紙アリ華北新報ハ関係者一部赤化嫌疑ヲ受ケ官憲
ニ處分セラレテ閉鎖トナリタル外他ノ三紙ハ財政不足

経営困難ニ陥リタルモノナリト云フ

三 露字新聞

現在露字新聞ハモルワ^コイウダスチ^コシーズニ^コサリ^ルル^コスコエス^コロウ^コグ^コル^コポ^コル^コグ^コン^コバ^コグ^コノ^コ六^コ紙^コニ^コシ^テグ^コン^コバ^コグ^コハ^コ那官憲機関紙^コノ^コイ^コウ^コダ^コス^コチ^コシ^コズ^コニ^コハ^コ本年^コ末^コ極^コ東^コ銀^コ行^コニ^コ買^コ收^コセ^コラ^コレ^コモ^コル^コワ^コト^コ共^コニ^コ純^コ然^コタル^コ共^コ産^コ党^コ及^コ職^コ業^コ同^コ盟^コノ^コ機^コ関^コ紙^コト^コナ^コリ^コザ^コリ^コヤ^コハ^コ従^コ来^コ標^コ榜^コシ^コ末^コレ^コル^コ立^コノ^コ旗^コ幟^コヲ^コ撤^コシ^コテ^コ白^コ系^コニ^コ走^コレ^コハ^コ前^コ述^コノ^コ通^コリ^コニ^コシ^テ他^コノ^コル^コス^ココ^コエ^コス^コロ^コウ^コグ^コ及^コル^コポ^コル^コハ^コ純^コ然^コタル^コ白^コ系^コナ^コリ^コト^コス^コ發^コ行^コ部^コ數^コノ^コ最^コ多^コキ^コハ^コモ^コル^コワ^コト^コナル^コモ^コ同^コ紙^コハ^コ党^コ員^コ組^コ合^コ員^コニ^コ對^コス^コル^コ強^コ制^コ購^コ讀^コナル^コヲ^コ以^テ販^コ賣^コ部^コ數^コノ^コ多^コキ^コハ^コザ^コリ^コヤ^コ及^コル^コポ^コル^コナ^コリ^コト^コス^コノ^コイ^コウ^コダ^コス^コチ^コシ^コズ^コハ^コ智^コ識^コ階^コ級^コノ^コ一^コ部^コニ^コ愛^コ讀^コセ

在哈爾濱日本帝國總領事館

ラル、本年十一月^コグ^コン^コバ^コグ^コハ^コ姉^コ妹^コ紙^コ夕^コ刊^コウ^コエ^コ一^コチ^コエ^コル^コヲ^コ發^コ刊^コシ^コタル^コモ^コ年^コ末^コニ^コ至^コリ^コ休^コ刊^コス^コル^コニ^コ至^コレ^コリ^コハ^コ哈^コ爾^コ濱^コニ^コ於^コケ^コル^コ露^コ字^コ紙^コハ^コ帝^コ政^コ時^コ代^コハ^コ勿^コ論^コ革命^コ後^コト^コ虽^コ猶^コ爭^コフ^コベ^コカ^コラ^コザ^コル^コ權^コ威^コヲ^コ有^コシ^コタ^コリ^コシ^コガ^コ支^コ那^コ側^コカ^コ東^コ支^コ沿^コ線^コ行^コ政^コ權^コノ^コ奪^コ回^コ、^コ市^コ政^コ回^コ收^コニ^コ成^コ功^コス^コル^コヤ^コ露^コ字^コ紙^コニ^コ對^コス^コル^コ取^コ締^コリ^コ嚴^コ重^コニ^コシ^テ赤^コ系^コ紙^コノ^コ宣^コ傳^コ禁^コ壓^コハ^コ勿^コ論^コ白^コ系^コ紙^コニ^コ對^コシ^テモ^コ單^コニ^コ露^コ字^コ紙^コナル^コカ^コ故^コニ^コ壓^コ迫^コス^コル^コカ^コ如^コク^コ本年^コ十^コ月^コ機^コ関^コ紙^コグ^コン^コバ^コグ^コノ^コ權^コ護^コノ^コ為^コメ^コ一^コ般^コ露^コ字^コ紙^コノ^コ發^コ賣^コ時^コ間^コヲ^コ限^コ定^コシ^テ紙^コ面^コニ^コ制^コ限^コヲ^コ加^コフル^コ等^コ當^コ地^コ以^テ外^コ見^コル^コ能^コハ^コザ^コル^コ異^コ令^コヲ^コ發^コセル^コニ^コ見^コル^コモ^コ其^コノ^コ取^コ締^コリ^コ振^コリ^コノ^コ一^コ端^コヲ^コ見^コル^コヲ^コ得^コヘ^コク^コ為^コメ^コ露^コ字^コ紙^コハ^コ勿^コ論^コ漢^コ字^コ紙^コニ^コ至^コル^コ迄^コ絶^コハ^コス^コ官^コ憲^コノ

鼻息ヲ窺ヒ意思ヲ付度シ時問題ニ関シテ論
 評ヲ試ムル場合官憲ノ利害ト自説相一致ス
 ル時ニハ始メテ聲ヲ大ニシテ特筆スルト虽然
 ラサル場合ニ於テハ口ヲ紙シ官憲ノ利害
 ニ關係ナキ他國ノ外交問題等ヲ把ヘテ論
 評セントスルガ如キ傾向アリ而シテ露字紙一
 般ノ對日態度ハ何レモ著シキ排日的色彩
 アルヲ認メス赤系紙ハ帝國ノ外交政策等ニ
 對シテハ常ニ中央政府ノ意嚮ヲ汲ンテ論評
 ヲ試ミ白系紙ハ日蘇接近ヲ嫉視シ接近ノ
 傾向アル事件ニ對シテハ事毎ニ惡評ヲ加ヘ
 及蘇的行動ニ對シテ誇大ニ之ヲ吹聴シ自派
 ノ利益ニ誘導セントスルヲ常トセリ

在哈爾濱日本帝國總領事館

四 英字新聞

次ニ英字新聞界ヲ窺フニ一九二五年露人
 キンボノ經營セル經濟紙「コムメルケエス
 ノ際列後ハ當地ニ純然タル經濟紙存セザリシヲ
 機トシ英人「フリート」ハ一九二六年十月ハ
 ルポストロナル「英露西字紙」ヲ創刊シタルモ
 香シカラス其右數ヶ月ヲ經營シ遂ニ閉鎖シタルヲ以
 テ現在ハ前年合様「ハルビン」ニ「エース」及「ハ
 ヲブサー」ガ「ロ」ニ紙ヲ有スルノミナリ而シテ右
 西紙ハ
 英米側ノ準高業機関ナルモ當地方米英人
 及少數ノ外國官衙ヲ購讀者トシテ有スルニ
 過キス記事亦貧弱ナルモ支那及其他外國
 英字紙ノ當地方事情トシテ右新聞記事ヲ

轉載ニ成ハ吉地方事情研究ノ資料トナスモノアルヲ以テ此英ヨリ輕視出来ズ

哈爾濱

又々

轉載シ或ハ當地方事情研究ノ資料トナスモノアリ
ルヲ以テ此點ヨリ輕視出來サル次第ナリ

五、各新聞ノ一覽表

ハ、漢字新聞

名稿
ハ、國際協報

主義系統

國際關係ノカ説ニ努メ國民外交ノ緊要ヲ鼓
吹シ記事最モ迅速、文那官憲ニ連絡ヲ有ス
持主又ハ社長

社長張復生(山東掖縣人)字、澄生又ハ號一ト稱ス

主筆ヲ兼メ曾テ泰東日報、盛京時報、大連十
日報ニ筆ヲ執リタルコトアリ現ニ市自治會委員

在哈爾濱日本帝國總領事館

ナリ當年四十八歳

主筆及重ナル記者

一、張子金(山東省人)又子幹トモ稱ス東三省記事ヲ
擔當セリ

二、王新民(山東省人)市内記事担当

三、吳子尚(廣東省人)國內記事担当

備考

民國八年一月十日創刊日刊(朝)八頁

発行部数、一千五百ト稱ス

發行場所、哈爾濱道裡新城大街五道街口

名稿

ハ、哈爾濱公報

主義及系統

0217

特別区行政長官公署機関紙、露字^カグンバト^ト姉妹関係ニ在リ
社説論評ヲ為スコト稀ニシテ特別区行政振リヲ宣傳ス

持主又ハ社長

社長 國鴻 羽異(奉天瀋陽縣人)字賓如、現ニ特別区地政管理局調査總務科長、東支鐵路督辦公署、特別区行政長官公署秘書其他ニ三官署ニ在リ有ス當年三十六歳

主筆及重ナル記者

- 一 孫子敬(山東省人)編輯長
- 二 崔蕭九(奉天省人)市内記事担当
- 三 邊如如(奉天省人)文藝、東支省記事担当

在哈爾濱日本帝國總領事館

備考

民國十五年十二月十日創刊 日刊(朝八頁)附屬報ニ市報四頁アリ

發行部數二千ト縮ス

發行場所、哈爾濱道裡軍官街十二號

名稱

3 東三省商報

主義及系統

商業啓蒙主義、當地商業各機関ト聯絡ヲ保テリ

官憲トノ關係比較的自由ノ立場ニ在リ社説論評殆ト無ク記事迅速ヲ缺ク

持主及社長

0153

0218

社長葉元亭(廣東香山縣人)字輕驟主筆ヲ兼又廣東
覺報主筆、南洋兄弟煙草公司大連分局經理トナ
リ現ニ特別区路警處諮議ニ席ヲ置ケリ
當年四十一歳

主筆及重ナル者

- 一、李似華(安徽省人)國內記事担当
- 二、楊立三(四川省人)市内記事担当
- 三、吳宇重(江蘇省人)文藝、東省有記事担当

備考

民國十年十二月一日創刊(日刊)朝(八頁)
発行部数、一千三百下程ス
発行場所、哈爾濱道外十五道街、路南

名一、稿

在哈爾濱日本帝國總領事館

4 濱江時報

主義及系統

社會啓蒙ヲ標榜ス但シ社説、論評ヲ為スコ
ト無ク平々凡々

持主及社長

沈聘卿(社長)直隸省塩山縣人
東支鐵路督辦公所諮議、濱江警察廳諮議
ニ席ヲ置ク

主筆及重ナル記者

- 一、趙逸民(直隸省人)
- 二、呂仲三(シ)

備考

民國九年四月三日創刊(日刊)朝(八頁)

0189

0219

<p>発行部数、五百ト称ス</p> <p>発行場所、哈爾濱道外南頭道街^大中間路南</p>	<p>名 稱</p> <p>✓ 大北新報</p>	<p>主義及系統</p> <p>日支親善 滿蒙啓蒙 奉天盛京時報ノ分身ニシ</p> <p>盛京時報ノ北滿版ナリトス</p>	<p>持主及社長</p> <p>山本久治</p>	<p>主筆及重光記者</p> <p>一、王丞兼(奉天省人)</p> <p>二、李秉初(ハク)</p>	<p>備考</p> <p>在哈爾濱日本帝國總領事館</p>	<p>民國五年十月一日創刊日刊(朝)四切版四頁</p> <p>発行部数、二千五百</p> <p>発行場所、哈爾濱八站</p>	<p>名 稱</p> <p>16 松北晚報</p>	<p>主義及系統、高工振興</p> <p>松北市政局ノ補助ノ下ニ松北報トシテ民國十</p> <p>五年八月創刊專ラ松北鎮ノ紹介ヲ爲シ来リ</p> <p>タルニ經費不足ノ爲メ民國十六年八月中止九、十</p> <p>ノ二月ヲ経ラタリトシテ一月ニ現ル</p>	<p>持主及社長</p> <p>禮茂王 潤 滋 (山東福山人) 字目空之 主筆ヲ兼又</p> <p>當五十三歳</p>
---	--------------------------	---	--------------------------	--	-------------------------------	--	---------------------------	--	---

0220

備考	民國十六年十一月一日創刊日刊(夕)四頁
名	發行部數 五百十紙
✓	發行場所 哈爾濱道外蒼苔里東順街路西
主義及系統	民智開蒙供排外宣傳ノ傾向ヲ有ス
持主及社長	社長趙郁卿(山東省人)主筆ヲ兼ヌ
主筆及重ナル記者	林嘯天(山東省人)編輯
備考	在哈爾濱日本帝國總領事館
名	民國九年五月創刊日刊(正午)四切四頁
✓	附屬報(濱江畫報)半紙型一枚
主義及系統	發行部數 三千十紙
名	發行場所 哈爾濱道外七道街
✓	主筆及系統 華東通信
持主及社長	支那官憲ノ援助ニヨリ維持ス、關係以勸業護
主筆及重ナル記者	宣傳
主筆及重ナル記者	社長陳公毅(京北人)
主筆及重ナル記者	陳紀揚(京北人)編輯

0221

備考	民國十三年五月一日創刊 騰寫版 通信回数以上 發行部數 三百見當 發行場所 哈爾濱道外四道街
名	福
主業及系統	各地無線電消息ヲ希望者ニ配布ス 主義主張ヲ有セス
持主及社長	社長 劉 瀚 (浙江省人)
備考	支那陸軍無線ヲ利用ス、配布數四、五千 在哈爾濱日本帝國總領事館
名	福
主業及系統	東北月報 文藝啓蒙
持主及社長	社長 王 輔 濬 (吉林省人)
主筆及重ナル記者	一、王 瀛 洲 (北京人) 二、深 醒 時 (奉天省人)
備考	民國十三年丁月五日創刊 月刊 發行部數 一千二百ト補ス 發行場所 哈爾濱道外正陽街

0222

口、露字新聞

名 稱

① 口、露字新聞

主義及系統

共產主義、勞農政治、歌、系統、ソヴェト、解卯

持主及社長

持主 パリヤチン 會社 (チエルニヤフスキー) 及び フリクソン 會社 (會社)

主筆及編輯者

- 一、チエルニヤフスキー (猶太人) 本業醫師、古キ社會民主黨
 - 二、モレコフ 独乙旧日、政治方面シ担当ス
 - 三、ベリヤフスキー 帝政時代、武市国立銀行ニ勤務ス
- 本年 轉モルワヨリ 轉ズ

在哈爾濱日本帝國總領事館

備考

一九〇七年創刊 日刊(朝)日曜 祭日ハ休刊ス 四頁大
 発行部数 三千五百、前身、ノワキジノズニ 一九一四年
 政變、一九一七年末紙持主タル、(チヤチ)社ハ極東銀行
 ニ買収サレ、純共產黨機關紙トナル、知識階級及猶太
 人ニ讀者タレ、曾テ排日排滿欽詔事ヲ掲ケレモ近來
 著シカラス

名 稱

② モルワ

主義及系統

共產主義、勞農政治、支持、系統、ソヴェト、解卯

持主及社長

名義上ノ持主、エヌバネケヤン (事實上ハ、勞農職業同盟)

0220

0223

主筆及重ん記者

一、主筆^ロネケキン^ロ表名^ロテウイリ^ロ又ハダリスキ^ロ元ザリヤ^ロノ配
連ナリシカ記者トナリ一九二四年本紙ヲ創刊ス一九二
六年本紙ヲ職業同盟ニ譲リ其ノ機関トナルヤ自身
ハ名義上ノミソ社長兼主筆トナリ専ラ經營方面擔
ハリ居タルカ本年申頃ヨリハコレヨリモ手ヲ引キ稀ニ
名士^ロインダーヴユ^ロヲ取扱フノミ、政治的定見ナク
節操ニ定シ

二、^ロヤラウ^ロテイレグ^ロ共産黨員、事實上ノ主筆、國際問題
ニ通ス

三、^ロテニソン^ロ營業部長^ロドラヴ^ロフライング^ロト共ニ本紙ノ實
權ヲ握ル執筆スルコト稀ナリ

四、^ロレフコフス^ロモ^ロ表名^ロボリトラク^ロ共産黨員、労働者
向記事ヲ担当ス一九二六年音楽家ト偽稱シ^ログロフ

五、^ロアイ^ロ引^ロ率^ロノ^ロオ^ロペ^ロラ^ロ團^ロニ^ロ加^ロハ^ロリ^ロ渡^ロ日^ロマ^ロル^ロト^ロアリ
^ロラ^ログ^ロロー^ロフ^ロ本紙^ロ表^ロ化^ロ前^ロノ^ロ主^ロ筆^ロ記^ロ者^ロ社^ロ會^ロ文^ロ藝^ロ欄
担当

六、^ロカ^ロル^ロケ^ロス^ロ共産黨員、東支關係担当
備考

一九二四年八月創刊日(朝)但日曜祭日ノ翌日ハ
休刊、六頁

発行部数約七千本紙カ一九二四年^ロネ^ロキ^ロン^ロニ^ロヨ^ロリ^ロ創
刊セラレタル當時ハ不定期發行ニシテ部数僅カ
ニ三百五十ニ過キザリシカ一九二六年職業同盟機
関紙^ロエ^ロホ^ロカ^ロ支^ロ那^ロ官^ロ憲^ロノ^ロ忌^ロ憚^ロニ^ロ觸^ロレ^ロ齊^ロ刊^ロス^ロル
ノ止リナキニ至ルヤ同盟ハ本紙ヲ^ロネ^ロキ^ロン^ロヨ^ロリ^ロ買

收シエホ記者ヲ全部本紙ニ移シ内容外觀ヲ全クエホ化スルニ至レリ購読者ハ東支ソ聯印国籍従業員及職業同盟員全部ニシテ鐵道従業員ヨリハ購読料ヲ俸給ヨリ控除シ居レリ

名 稱

主義及系統

民主主義及過激派數年前迄ハ改正中立ナリシカ一九二六年頃ヨリ白化シタルニ政策上中立シ標シ極端ナル及過激派誌事ヲドボル紙ニ譲リ居リモ本年ヨリハ全ク白化スルニ至レリ

主筆及重ん記者

社長兼主筆 正ハレンビツケ 福太人 新聞ニ投シタル

在哈爾濱日本帝國總領事館

資本金約四万円

- 一、主筆「レンビツケ」革命前歐露ルスコエスコーキ記者多ク「ハムスク」政権時代「コルチヤク」ニ及對行動ヲ「トリタル」コトアリ、一九二〇年末迄、一九二六年ヨリ「ミルレル」ト共ニ上海ニ於テ「シヤンハイガリヤ」ヲ發行シツアリ
- 二、新聞経営及編輯ノ経験深シ
- 三、「レフコフ」記者トシテ経験深シ主筆「レンビツケ」トハ「ハムスク」時代相識ル政治、鐵道關係担当
- 三、「サアローラ」支那側及外國側方面担当

備考

一九二〇年五月十五日創刊日(朝刊)無休四頁大發行部數、七千各階級ニ讀者ヲ有ク社員職工等ヲ含ミ約百名支那官吏東支要人等ニ

<p>接近シ報道敏速ニシテ編輯振又巧妙ナルモ 販賣政策上時ニ共テ記事アルラク點トス</p>	<p>名 編</p>	<p>4 ルポール</p>	<p>主義及系統</p>	<p>民主主義及過激派白系</p>	<p>持主及社長</p>	<p>カウフマン (社長兼主筆)</p>	<p>主筆及重刊記者</p>	<p>一、主筆 カウフマン 本業医師ナルモ弘ク新聞業ニ関係 セリ一九二六年四月支那側ノ中政回收迄ハ市會 議員タリ</p>	<p>二、 ペトロフ 旧將校三年前ルスコエスロニア前身</p>	<p>在哈爾濱日本帝國總領事館</p>	<p>三、 ルスコエ、ゴロスヨリホ紙ニ轉ス ホスメーロフ 本年春モルワヨリ轉ス</p>	<p>備考</p>	<p>一九二二年創刊日(夕)刊 四頁大 發行部數、六千當地唯一ノ夕刊紙ニシテ各階級 ニ讀者ヲ有シ婦人向記事多シガリヤ紙ト同 係アリ同紙カ曾テ中立シ標榜シ居レル際同紙 ニ代リテ及労働的記事ヲ大ク掲ゲタルニヨリ 労働例ヨリ極端ニ敬視サル</p>	<p>名 箱</p>	<p>5 クンバヤ</p>	<p>主義及系統</p>	<p>支那側機關紙 公報 露字版</p>
---	------------	-------------------	--------------	-------------------	--------------	----------------------	----------------	--	-------------------------------------	---------------------	---	-----------	--	------------	-------------------	--------------	----------------------

0226

主筆及重ナル記者

一、主筆 メリク、ホルタンマンワ 現職支那仰光税務局監察官

二、編輯長 ウイスキー、旧コルタヤク 軍將校曾シザリヤ
ルホル 記者タリ

三、トビン 元船員曾テ邦人大河原石仁カ當地ニテ發行セル ウイストツク ニ執筆セルコトアリ司法警察記事担当

四、ビート 復名 ロコトフ 旧將校 ザンヤ 及 ノウリスレカ 紙ニ執筆セルコトアリ、鉄道関係担当

五、フラトリノフスキー 元 ウイスト (白系一九三四年発行) 記者ニ中政方面担当

六、カイサロフ 元新聞記者ナルカ現職ハ東京支鉄道本社書記ナリ リシエナル 復名ヲ以テ論説及小品文ヲ掲ク

七、サトフスキー、ルチエフスキー 復名 カワリ、エスエル ウエリ ツリイ ユエリ、ウエルホフスキー アエス、ゴルスキ カリエ キ、ドルグ 記者トシテノ經歷古ク相當名アリノ言論界ニ權威ヲ有ス最近 ザリヤ 紙ヨリ本社ニ入ル

八、フセバロドイワフ 復名 ドクトル、フイック ~~一九二〇~~ 年在浦汐 メルクーロフ 政權ノ官報ヲ編輯シ 后天津ニテ露英兩政 ナシプアケ ヲ發行セリ 目下本紙ノ論説ヲ担当ス、右傾露人間ニ人望アリ、本紙カタ刊 ウエーケ ヲ發行セル際其ノ主筆タリ

在哈爾濱日本帝國總領事館

備考

一九二六年十二月創刊日刊(朝)四頁、日曜及祭日ノ刊立
日休刊

発行部數三千五百部支那側機関ナルヲ以テ記事
正確ナルモ偏スルノ嫌アリ各官廳、大商店、事業
家智識階級ニ讀者ヲ有スルノミテ月ニテ日ヨ
リ姉妹紙夕刊^日ウエチエルヲ併刊シタルモ年未齊
刊セリ

注筆記者ハ何レモ無国籍者若ハ支那籍ニシテ
ソウイェト^日国籍者ノ入社ヲ許サズ

名 稱

6 ルスコエスロウキ

主義及系統

在哈爾濱日本帝國總領事館

帝政露國ノ復興ヲ理想トスル極端ナル及過激
派

持主及社長

社長兼主筆 コロポフ^日

主筆及記者

一、主筆 アイコロポフ^日 従來^日スパスキ^日ノ下ニ主筆
タリシカ本年二月社長トナル 第一革命當

時ハ社入曾主義ニ共鳴セシモ^日カデト^日黨ニ轉
ス、コルキヤツク^日時代^日オムス^日新聞ニ勤キシコトア
リ一九二〇年來哈本紙創刊ト共ニ之ニ入ル
財政問題ニ関シ見識アリ

二、主幹 アラキツク^日 創刊以來勤務ス

三、コルキヤツク^日 無産階級出思想ハ民主的ナ

ルモ極端ナル及過激派、曾テイルクワニ於テカ
ツデット古系統ニ主筆タリシコトアリ。一九二二年未哈
本紙ニ入ル。社説、政治ニ方面担当

備考

一九二〇年六月創刊日(朝)刊日曜及祭日ノ翌日休
刊四頁大

発行部数約二千、市内及鉄道沿線ノ白系露人ヲ
讀者トス。尚西歐ニモ送付ス、曾テハ白系思想
界ノ権カナリシカ東支鉄道ノ赤化后財政的危
機ニ遇ヒ優良ナル記者ヲ突ヒ他方負担ヲ
増シ本年二月ニハ社長ヲ替テ、近年編輯振
リ及過激宣傳勞農攻撃ヲノミ事トスルニヨ
リ人気ナシ尚本年ハ一九二二年以來ノ記者夕

在哈爾濱日本帝國總領事館

ル文豪^コ スキターレツ、バトロフ^コ ヲ矢ヘリ

ハ、英字新聞

名 稱

ハルビンデーリーニース^コ

主義及系統

不偏不党、對日感情良好、(米國籍)

持主及社長

ヘンリー・グイゲ^コ (社長)

主筆及重名記者

主筆^コ ヘンリー・グイゲ^コ、帝政時代永年露西軍
内ニ於テ米國側勤務ニ服シタル外併独
諸國ノ企業ニ關係シ一九一五年^コ バトロクラ
ド^コニ於テ各地唯一ノ英字紙^コ ラウレンティ^コ、

0229

ニエーストヲ經營セリ	備考	一九一九年創刊日刊四頁大、発行部数約五百	名 稱	②ハルビンヤブサーワー	主義及系統	嚴正中立ヲ標榜スルモ支那官邊ト特殊ノ関係ヲ結ビ居リ吾評良ラス但對日感情悪シカラス、英國籍	持主及社長	社長 ビ、エツケ、フリート	主筆及重ん記者	主筆 ビ、エツケ、フリート 黒龍江ニコラエフスク所在	在哈爾濱日本帝國總領事館	國領事館ニ副領事タリ外地ニ於テ人ヲ鑛業組合會長及商會會議所副會頭ノ職ニアリ	備考	一九二五年三月十五日創刊一週四回(日、水、金、土)発行 夕刊四頁大	発行部数約四百、本紙ハ創刊當時ハハルビン ラルドト稱セラレ判ニテ週三四ノ発行ナリレカ 其後半年ヲ經テ現在ノ如ク四回トナレリ	ニ邦字新聞	名 稱	①ハルビン通信	主義及系統	労農、露國ニ於ケル政治經濟状況ノ報道ヲ
------------	----	----------------------	-----	-------------	-------	--	-------	---------------	---------	----------------------------	--------------	---------------------------------------	----	--------------------------------------	---	-------	-----	---------	-------	---------------------

0020

0230

持主及社長	近藤義晴
主筆及重元記者	右全
備考	大正十五年発行毎週二回発行 発行部数三百、支那文約百部
名	2 哈爾濱日之新聞社
主義及系統	不偏不党
持主及社長	佐藤四郎
主筆及重元記者	古入工
備考	大正十年一月創刊日(朝)刊日曜祭日ノ外三日 休刊 発行部数一千、大正十五年十月ヨリ滿鉄ノ 経営トナル
名	3 哈爾濱通信
主義及系統	皇室中心主義亞細亞人種ノ團結鼓吹
持主及社長	大川周三

在哈爾濱日本帝國總領事館

0231

主筆及重ナル記者		
備考	右	人
大正十三年一月創刊日(朝)刊日曜祭日ノ翌日休刊 発行部数、五百		
名	稱	
④ 東方通信		
支社長及記者		
三田 雅客		
備考		
大正十年創刊日刊 発行部数印文八千、漢文 及露文各三千。		
名	稱	
⑤ 帝國通信		
支局長及記者		
細谷 清		
備考		
大正十四年九月創設日刊 発行部数約七十		
名	稱及主筆	
⑥ 露亞時報 (經濟事情報道)		
亦林 却 蔭		
備考		
大正八年九月毎月一回七百部		
⑥ 特派員及通信員		
氏名	所屬社名	備考
加賀美 康夫	日永新聞聯合社	支局長任

在哈爾濱日本帝國總領事館

0232

中山貞雄	大政朝日新聞社	特派員
玉置房一	大阪毎日新聞社	〃
森原一郎	時事新報社	〃
八木沼次夫	滿洲日報	支社社長
小此木純三	長春實業新聞社	支社社長
近藤義晴	報知新聞社	通信員
細岩清	京城日報社	〃
島崎龜雄	大連新聞社	〃
本橋壽一	日本電報通信社	特派員

在哈爾濱日本帝國總領事館

0230

0233